

事件のあらすじ

① 高崎市内のあるところに、「アリ」という名前の者と「キリギリス」という名前の者が住んでいました。

② アリは大変働き者で、夏の暑い頃も、遊びたいのがまんして、朝から晩まで一生懸命働き、野菜やお米をたくさん作り、作りすぎた分は市場に売りに行き、お金にかえてました。

一方、キリギリスは、大変なまけ者で、夏の間、暑いのをいやがって一つも働かず、遊んで暮らしていました。

③ しばらくして、寒い冬が来ました。

アリは、夏の間たくさん働いたので、食べ物にもお金にも困りませんでした。キリギリスは、食べ物もお金もなく困ってしまいました。

キリギリスは、お金を借りようともしましたが、働き者でないキリギリスには誰もお金を貸してくれません。

④ 「こうなったら、食べ物のたくさんあるアリのところに強盗（ごうとう）に行くしかない。」

キリギリスは、こう考えました。

しかし、自分で強盗などして警察に捕まっては大変です。

そんな時、キリギリスは、ふと、知り合いのコオロギのことを思い出しました。

コオロギにはかわいい娘がいて、コオロギは、その娘を大変かわいがっていました。

そこで、キリギリスは、その娘をゆうかいして、コオロギをおどかし、コオロギに強盗をさせようと考えました。

⑤ キリギリスは、コオロギの娘の通う小学校に行き、娘をだましてゆうかいし、コオロギを呼び出しました。

そして、慌ててやってきたコオロギにピストルを渡して、「これからこのピストルを持ってアリのところへ行き、アリをおどかしてお金や食べ物を取ってこい。もし、言うとおりにしなかったら、娘がどうなるか知らないからな。」と強い口調でおどして、コオロギにアリのところに行き強盗するように命令しました。

⑥ コオロギは、アリが大変働き者で、一生懸命財産をためていたのを知っていましたので、もちろん、アリのところから強盗などしたくはありませんでしたが、もしも大事な娘がキリギリスに殺されたりしたら、それこそ大変だと思い、キリギリスの言うことにしたがうことにしました。

そして、車でアリのところへ行き、アリにピストルを向けて、アリをおどかし、アリから食べ物やお金などを奪いました。

⑦ コオロギは、奪ったもの全てをキリギリスに渡し、キリギリスは、コオロギからそれらを受け取ると、すぐにどこかへ逃げていきました。

その後、コオロギの娘は無事、帰ってくることができましたが、コオロギは、車のナンバーから犯人と分かってしまい、警察に逮捕されました。

アリは、いきなりコオロギからピストルを向けられて殺されるかもしれないと思い大変こわい思いをしましたし、その上、夏の間、一生懸命働いて貯めた財産を全て奪われ、食べ物もなくなり、冬の間、どう過ごしていいか分からず、困っています。

質問

平成17年2月25日、コオロギは、前橋地方裁判所高崎北小学校支部の法廷において、刑事裁判にかけられることになりました。

さて、コオロギは、有罪、無罪、どちらになるのでしょうか。